



向島中学校区 <3学区合同> 小中一貫教育校創設協議会だより

※向島中学校区の3学区と4校PTAで組織する協議会が発行しています。

第②号

平成27年1月発行

～「新校舎の基本計画」と「一次統合の校名」の検討を進めています～

第2回創設協議会を開催

12月17日に開催した協議会では、国の小中一貫教育の制度化の動向等を共通理解した後、今年度の検討課題である『新校舎の建設に係る基本計画の策定作業』と『一次統合の校名等の取扱いに係る検討』の進捗状況を確認しました。今後も両課題の決定に向けて、取組を進めていきます。



着実に新校舎の基本計画の策定作業が進捗しています！

現二の丸北小学校の敷地に建設される新校舎の基本計画について、12月11日に**第2回目のワークショップが開催**される等、順調に策定作業が進んでいます。今後も年度内の策定に向けて精力的に取り組み、地域のシンボルとなる夢のある新校舎を目指します。

※詳細は裏面をご覧ください。



一次統合に向けた取組も始動しました！

新校舎の建設に際して、二の丸北小学校と向島二の丸小学校が一次統合されます。(向島二の丸小の現行校舎を活用し、29・30年度を予定)円滑な一次統合に向けて、「**2校PTA代表者会(10/29)**」と「**一次統合準備会(11/12)**」を設置しました。



◆校名等の取扱いについて◆

一次統合の校名(校歌・校章を含む)について、右表のとおり「向島二の丸」と「新校名」の2案によりPTAの意見集約を図っています。

最も影響が大きい二の丸北小学校では、「本統合にエネルギーを投入する方がよい」「二の丸北小は向島二の丸小から分校したので、元に戻ると考えたらい」「校名より統合の中身が重要」などの意見が出されています。

今後、更に検討を進め、関係2校のPTA臨時総会で決定のうえ、一次統合準備会と創設協議会で最終決定する予定にしています。

いずれに決定しても、「**対等統合**」として両校の教育内容を融合し、小中一貫教育校につながる**新たな学校づくり**を進めていきます。

	「向島二の丸の校名」 により一次統合	「新校名」 により一次統合
案	校章・校歌は、向島二の丸小の現行のものを使用	校歌・校章は、新校名に 応じて新たに作成
検討の視点	校名の決定に係る労力が省ける。 吸収統合の印象を与える可能性がある。 分校前に戻るため、変遷が明瞭で、将来的に経過が引き継がれやすい。 向島二の丸小では、児童・保護者の負担が少ない。	校名の決定に係る労力がかかる。 対等統合の位置付けが明確になる。 2年間の学校となり、将来的に認知度が低い学校となる可能性がある。 両校の児童・保護者に負担がかかる。(校歌の記憶、校名の書き換え等)

ご意見やご質問などがありましたら、各学校までお寄せください。

- 向島南小 TEL 602-2824 FAX 602-2825 e-mail mukaijmaminami-s@edu.city.kyoto.jp
- 二の丸北小 TEL 622-4684 FAX 622-4623 e-mail ninomarukita-s@edu.city.kyoto.jp
- 向島二の丸小 TEL 622-9001 FAX 622-9045 e-mail ninomaru-s@edu.city.kyoto.jp
- 向島中 TEL 623-0512 FAX 623-0513 e-mail mukaijima-c@edu.city.kyoto.jp

第2回「新校舎建設のワークショップ」を開催

平成26年12月11日(木) 於:向島中学校会議室

～新校舎の配置計画を検討しました～

第2回目のワークショップでは、第1回(10/14)の意見やアイデアを反映して京都市で作成された『新校舎の配置イメージ案』について話し合いました。

① 校舎は敷地の北側に配置

最初に、新校舎の敷地内での配置箇所について、北側・西側・南側の各特徴が説明されました。

教室の環境、校舎の一体感や動線、グラウンドの日当たりなどを総合的に検討すると、現在の二の丸北小学校と同様に“北側の配置が最良”であることを全員で共有しました。





▲現在の二の丸北小学校

② 「L型」と「斜め」の校舎配置案を比較検討

次に、校舎棟を「L型に配置」と「斜めに配置」する2案について、参加者が4グループに分かれ、「良いところ」や「こうして欲しいところ」などの意見を出し合いました。



	L型(校舎棟を整形に配置)	斜め(校舎棟を斜めに配置)
配置案と特徴	<ul style="list-style-type: none">将来的に各スペースの転用がしやすい。採光が良い南側と東側に教室が多く配置できる。廊下等がやや入り組み、死角ができる。整形な空間で機能性が高い。端正な外観となる。 	<ul style="list-style-type: none">共有空間にゆとりがあり、楽しさや新しさがある。採光が良い南側に教室を一行に配置できる。廊下がまとまり、見通しが良く、ゆとりがある。変化のある空間となる。新しさのある外観となる。 
主な意見	<ul style="list-style-type: none">機能的で使いやすい。今までの校舎と似ており、馴染みやすい。スペースに無駄がない。死角が多く、子どもの様子が見えにくい。特徴がない。変化がない。堅苦しい。	<ul style="list-style-type: none">目新しい形状が地域のシンボルになる。共用部にゆとりがある。明るく開放感がある。死角が少なく安心である。不整形なスペースの使い方に工夫が必要。

③ 「斜め配置案」が良いとする意見が多数

最後に、各グループから話し合いの内容を発表し、全員で意見交流しました。

両案ともに様々な意見が出されましたが、校舎を地域のシンボルとして特徴や魅力あるものにしたいとの願いから、「斜め配置案」の方を評価する意見が多数を占める結果となりました。



今後の予定

京都市において、今回のワークショップを踏まえ「斜め配置」を前提に、教職員の意見も聞きながら、具体的な教室配置や外観イメージ等の作成が進められます。その後、第3回目のワークショップの話し合いを経て、最終的な計画が策定され、創設協議会で報告を受けることとなります。